

農業生物多様性保全の新たな取り組み：

サブサハラ・アフリカにおける農家を支える事業の試みから



名古屋大学大学院国際開発研究科

西川 芳昭 教授

昨 年名古屋で開かれた COP10 でも議論されたように、生物、とりわけコメやイモなどの作物遺伝資源の多様性保全の問題は、世界の食糧問題や途上国の貧困問題の解決とも関わる重要なテーマとして、近年注目されてきました。

作 物遺伝資源の多様性保全にあたっては、従来作物が作られる場所とは離れたジーンバンク（遺伝子銀行）において保存する形が中心だったのですが、近年は、ジーンバンクを運営する研究・普及機

関と農家とが連携し、各農家が地域の条件に適した多様な品種を栽培することによって、遺伝資源の保全と農家の生計向上の両立を図る取り組みが見られます。

本 講演では、日本やアフリカ各国でこれらの連携事業を調査してこられた名古屋大学の西川芳昭先生をお招きし、農業生物多様性保全における新たな取り組みの現状と今後の可能性・課題についてお話を伺います。

日時： 2011年7月15日（金）17：00-19：00

会場： 南山大学名古屋キャンパス

J棟1階特別合同研究室（Pルーム）

